

平成 29 年度
学校関係者評価報告書

平成 30 年 8 月 1 日(水)

学校法人 宮崎総合学院
宮崎情報ビジネス医療専門学校

平成30年度第1回「学校関係者評価委員会」報告について

宮崎情報ビジネス専門学校では、平成23年度より、教育内容や日々の学校運営に関する業務について点検し、更なる改善、向上を図るため、自己点検・評価に取り組み、平成24年6月（第1回）、平成25年7月（第2回）に、学校法人宮崎総合学院のホームページ上で公表いたしました。

更に、本年度は文部科学省の「職業実践専門課程」に係る公示に併せて、学校単体での「学校関係者評価委員会」を開催し、本校に関係の深い病院関連や企業関連の方々に、本校の教育活動や学校運営に関してご意見、提言等をいただき、今後の学校運営や評価の在り方について、より良い改善を図っていくことといたしました。

今回、平成28年度第2回「学校関係者評価委員会」を開催し、平成27年度に続き貴重なご意見、ご指摘を頂きました。ご意見・ご提言をいただいた皆様にもあらためて感謝申し上げます。

今回、平成29年度の評価結果を真摯に受け止め、今後とも、業界、地域、学生のニーズに応えられる学校運営を目指し、教職員一同努力して参る所存であります。

引き続き一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

平成30年8月

宮崎情報ビジネス専門学校

校長 栗山 重隆

1. 「学校関係者評価」の実施方法について

今回の「学校関係者評価」は、文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」を踏まえた評価項目に沿って実施した、「平成29年度自己点検・評価報告書」について、本校に関係の深い企業等9名の評価委員（委員一覧表）に評価していただいた。

評価委員からの意見は、本校で組織する自己点検・評価委員会委員長（校長）及び教職員が承り、その評価結果の内容等について要約の上、報告書として取りまとめた。

自己点検・評価報告書（平成28年度版）と併せてご覧頂きたい。

2. 学校関係者評価委員一覧表

評価委員 敬称略	会社（企業）名	役職名	任期	備考
川崎 友裕	一般社団法人 宮崎県情報産業協会	会長	H30.3.31	(株)MJC 社長 (欠席)
鈴木 斎王	宮崎大学医学部附属病院 地域医療連携センター	准教授	H30.3.31	医師・医学博士
丸山 博史	社会医療法人同心会	理事 事務局次長	H30.3.31	
吉田 昌浩	医療法人社団晴緑会 宮崎医療センター病院	事務長	H30.3.31	(欠席)
南 克弘	株式会社インタープロ	社長	H30.3.31	
井上 雅博	株式会社 フェニックスシステム研究所	イー・アント・エム グループ PMO 担当	H30.3.31	
木下 昌徳	株式会社 ニューウェルシティ宮崎	取締役 総支配人	H30.3.31	
笹山 公久	株式会社坂下組	総務部長	H30.3.31	宮崎本社
下笠 敏徳	宮崎県幼稚園連合会	副会長	H30.3.31	学校法人三育学園 光が丘幼稚園 理事長
小森 晴美	学校法人福原学園 野の花幼稚園	主任	H30.3.31	
河野 大樹	株式会社メガ・テクノロジー	主任	H30.3.31	(欠席)

3. 委員会次第（概要）

(1) 開会

(2) 校長挨拶

省略

(3) 委員長選任

宮崎大学医学部附属病院准教授 鈴木齋王委員を委員長に選出した。

(4) 平成29年度 委員会議事録確認告

副校長より議事録確認が行われた。

(5) 平成29年度 学校自己点検評価報告

教務課長より、各項目についての報告を行った。

(6) 討議・意見交換

各評価委員から、報告に対するご意見やご指導をいただいた。

(詳細は後記のとおり)

(7) 閉会

4. 討議・意見交換について

各表会員から、評価の低い項目についてご意見やご指導をいただいた。

◇ 評価項目2-12（結果に基づく授業参観）

・専門学校で授業参観という事がはっきりとわからない（井上委員）

⇒ 学校法人内に「教務推進本部」があり、その部署を中心に指導力向上を目指して、各学校の教員の中から選抜して授業参観を行っている。その中で授業方法のチェックを行い、結果をフィードバックしている。また、「研究授業」も実施しており、シラバスなどもすべて準備した上で授業を実施。その後「授業研究」として、その日の授業に付いて勉強会を実施している。（岩村副校長）

◇ 評価項目3-3（図書室について）

・図書館にはない専門書が幼稚園には多いが、学生が自分で買うかといえば難しい。そのようなことを考えると、書籍が揃っているような環境が学生のためにもなるのではないか（小森委員）

◇ 評価項目4-17、18（卒業率の公表、就職先等の記録）

・記録されているだけなら、「4」でもいいのではないかと。（井上委員）

⇒記録については、今までのデータを記録しているため、「4」でも問題ないと思われる（岩村副校長）

⇒公表については、学生の名前を出さずにWebサイトに掲載している。卒業“率”とした場合に、入学生数に対しての卒業生数なのかといった分母が決まっていないため、今回の評価としている（岩村副校長、樋口課長）

◇各委員からのご意見

- ・学生の健康管理についてはどうなっているか。その項目をいれてもいいのではないかと。特にメンタル面での管理も項目としていれてみるのはどうか。企業ではその後のフォローまで法律で決まっている。（南委員）
⇒学生については健康診断を実施している。項目5-15において学生の定期的な健康診断の項目はある。学校では血液検査などはやっていない。（岩村副校長、樋口課長）
⇒若いうちは肉体的な部分では問題視する心配ないだろうが、メンタル面での管理は重要かもしれない（鈴木委員）
- ・2014年から始まっているこの評価について、当初は評価「1」の数が14項目あった。今回の結果を見ると努力の結果が見える。ただし、評価が下がった項目もあり、ずっと「1」のままの項目もある。あまりにも「1」が続く項目は現実的ではないとして項目から削除してもよいのではないかと。（丸山委員）
- ・必ずしも評価を上げなければならないのか？必ずやらなければならないのであればPDCAサイクルを回すことでしっかり進捗を管理できていればよい。そうでなければ項目を消すこともよいと思われる（木下委員）
- ・評価が上がったことを評価する項目があってもいいのではないだろうか。また、諸事情により試験に合格できない学生・卒業できない学生もいるわけで、それを数値で出すのもどうか。先生方も努力をしているはずなので、その努力の方を大切にしてほしい（下笠委員）

以上の意見を頂き閉会した。

—以 上—